



2022年5月13日

各 位

会 社 名 東京テアトル株式会社
代表者名 代表取締役社長 太田 和宏
(コード番号 9633 東証スタンダード)
問合せ先 取締役常務執行役員
管理本部長 松岡 毅
(TEL. 03-3355-1010)

営業外収益、特別利益、特別損失の計上及び連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2022年3月期におきまして、下記のとおり営業外収益、特別利益及び特別損失を計上いたしました。また、2021年11月10日に公表しました2022年3月期通期（2021年4月1日～2022年3月31日）の連結業績予想と実績値に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。なお、配当予想に修正はございません。

記

1. 営業外収益（助成金収入）（連結）の計上について

当社グループは、2022年3月期第4四半期連結会計期間において、助成金収入102百万円を営業外収益に計上いたしました。これは当社及び一部の連結子会社において支給申請を行った、政府及び各自治体からの時短営業要請に係る新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金や雇用調整助成金等です。

2. 特別利益（貸倒引当金戻入額）（個別）の計上について

当社は、2022年3月期第4四半期会計期間において、連結子会社に対する貸倒引当金戻入額258百万円を特別利益に計上いたしました。なお、当該特別利益は個別財務諸表のみに計上されるものであり、連結決算においては消去されるため連結財務諸表への影響はありません。

3. 特別損失（減損損失）（連結）の計上について

当社グループの映画館、飲食店の固定資産及び株式会社アクシーに係るのれんについて、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、2022年3月期第4四半期連結会計期間において特別損失として212百万円の減損損失を計上いたしました。

4. 特別損失（減損損失）（個別）の計上について

当社の、映画館及び飲食店の固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、2022年3月期第4四半期会計期間において特別損失として91百万円の減損損失を計上いたしました。

5. 連結業績予想と実績値の差異

(1) 2022年3月期通期連結業績予想数値と実績値の差異(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	13,500	△800	300	600	79.68
今回実績 (B)	13,056	△595	704	825	109.83
増減額 (B-A)	△443	204	404	225	
増減率 (%)	△3.3	—	134.8	37.6	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	13,306	△1,627	△1,151	△2,292	△303.13

(2) 差異の理由

業績予想を公表した2021年11月10日時点では、当社グループの業績は緩やかな回復を見せておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大によりまん延防止等重点措置が再度適用されるなど厳しい状況が続きました。

売上高は、映像関連事業における映画興行事業の回復基調が鈍化したしましたが、市況の追い風を受けて不動産関連事業の中古マンション再生販売事業が好調に推移し、売上高はほぼ予想通りになりました。

営業損失は、中古マンション再生販売事業の増益に加え、飲食関連事業のコスト削減が進み、予想より改善いたしました。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、上記の増益に加えて、営業外収益に計上された新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金や雇用調整助成金が見込みを超過し、予想を上回りました。

以 上